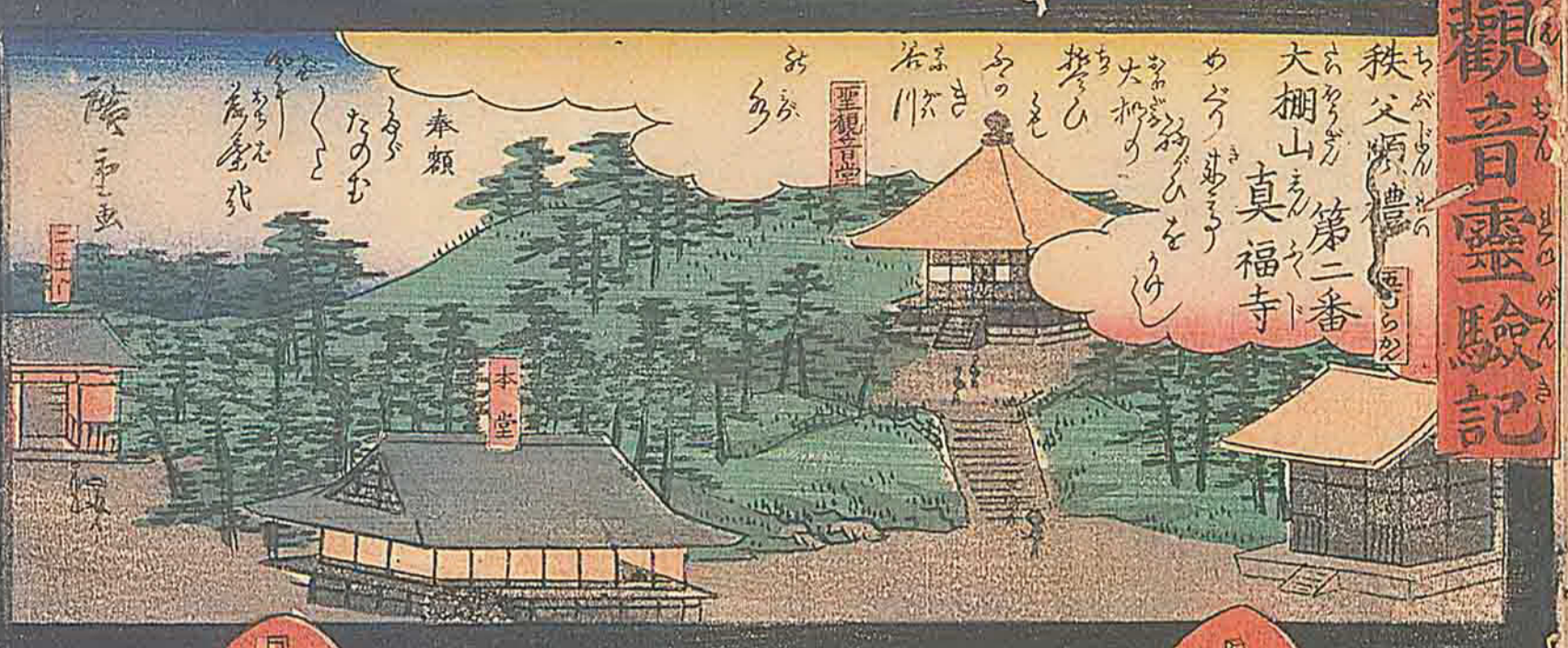




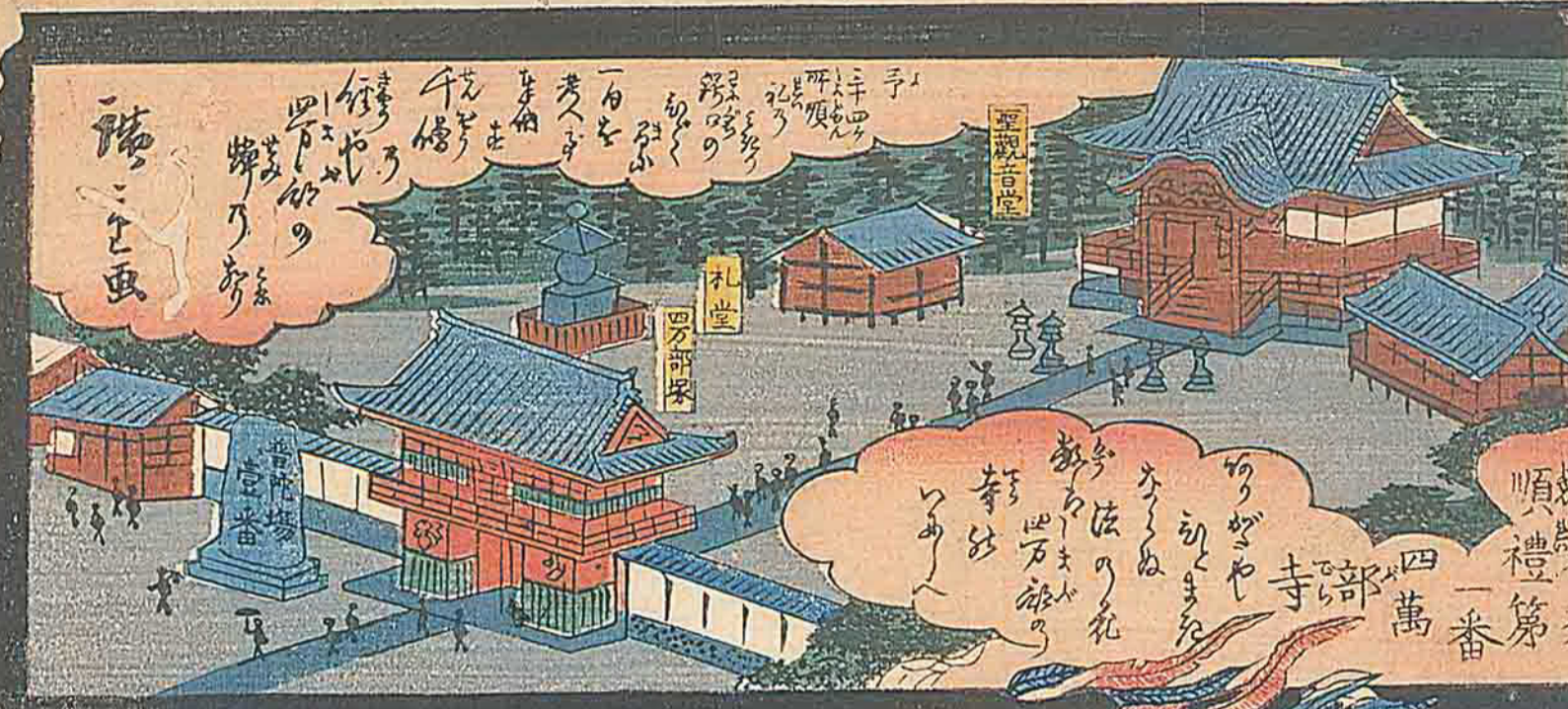
20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

觀音靈驗記



大桐禪師... 萬應... 應賀誌... 師の... 禪師の... 萬應... 應賀誌...

觀音靈驗記

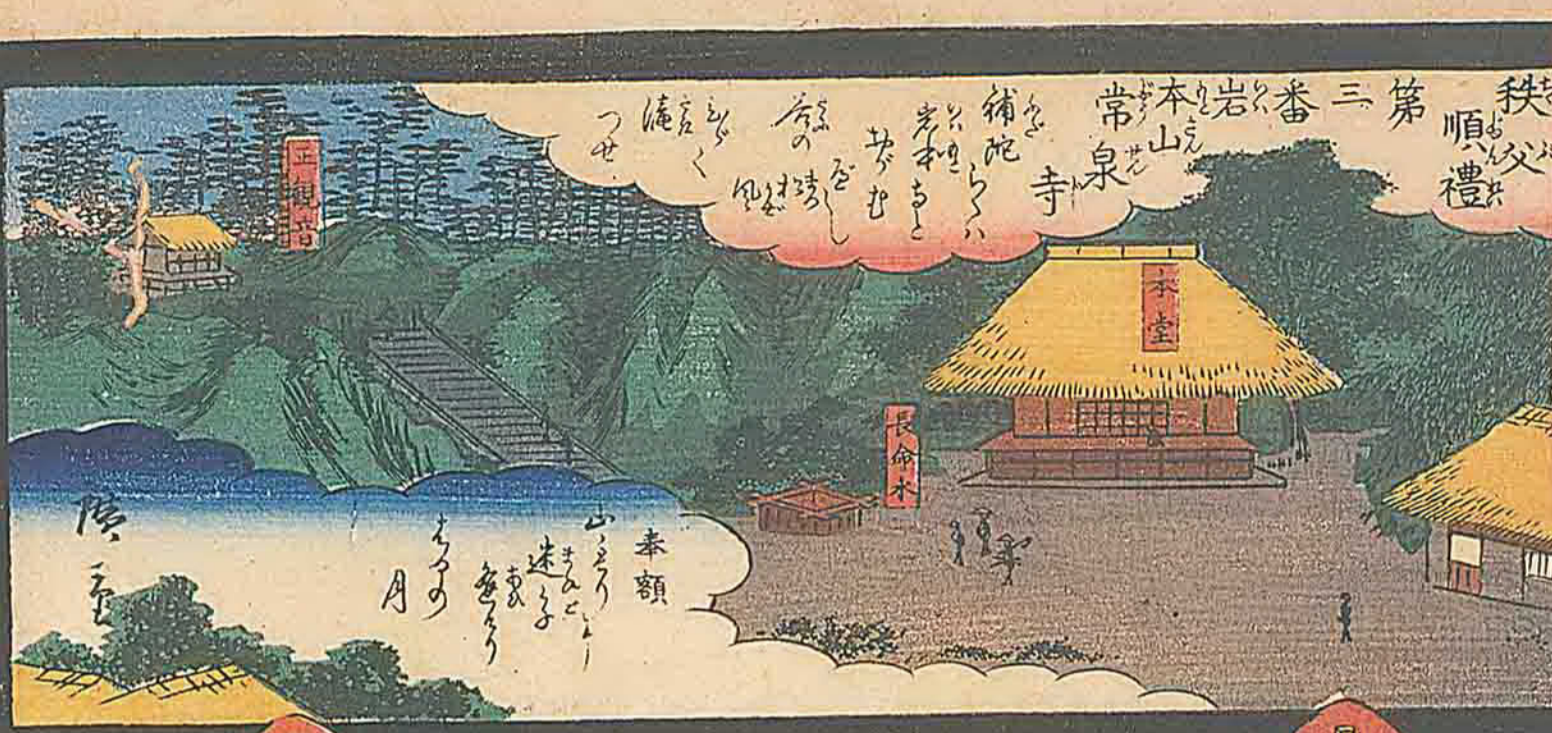


萬應... 應賀誌... 觀音... 萬應... 應賀誌... 觀音... 萬應... 應賀誌...

西國色

7164

観音靈驗記



秩父 第三番 常山 泉寺
本願 妙智カを
大悲の本願 授るに切るる國通
大士の慈悲 尊いべし
者信心し祈ま
福徳智 慧ある善男子を
授るに切るる國通
大悲の本願 大士の慈悲
妙智カを 仰ぎ
尊いべし



万亭應賀誌

萬亭應賀誌

観音靈驗記



荒木丹下
此所小住荒木丹下との者ハ慣貪邪智
因果乃道理を知らぬバ親寡孤獨を
恵まざる悪行をのみ業とせし
一時一人の順礼門前ハ行きて
手付らぬ依をいれバ姦や予
晝寐を妨げし手の手をもちて
殺謝せんと立出順礼の柄物を
奪ひ取て吾子のうちは是を
打擲せし順礼ハるるも多し
言葉先も済さみ手も
足らざるをかく



万亭 應賀誌

萬亭應賀誌

施さざるや去と攻れば正の
言今人神乃性多れば吾も
神を尊ぶ
吾を打擲す
の父母の
民の父母の
有るや
施さざる
されば我
死せん
佛
自他
平等と
説き
夫
詰れば丹下一言もか
起し此観世音を深く
信じて大善人と
ありし不思議
議の灵験
あり

観音靈驗記

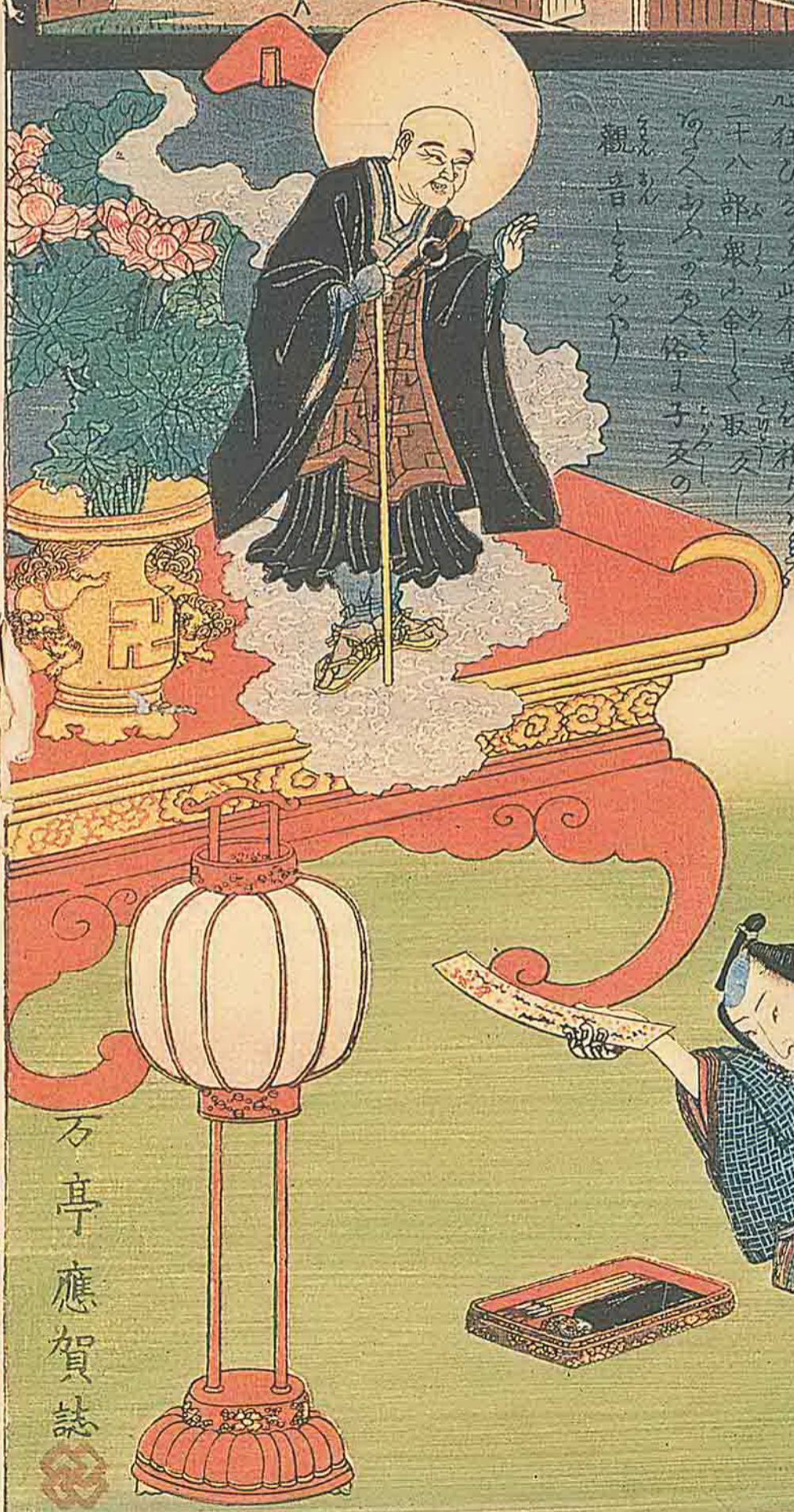


第五番
杖父順禮

小川山
寺歌

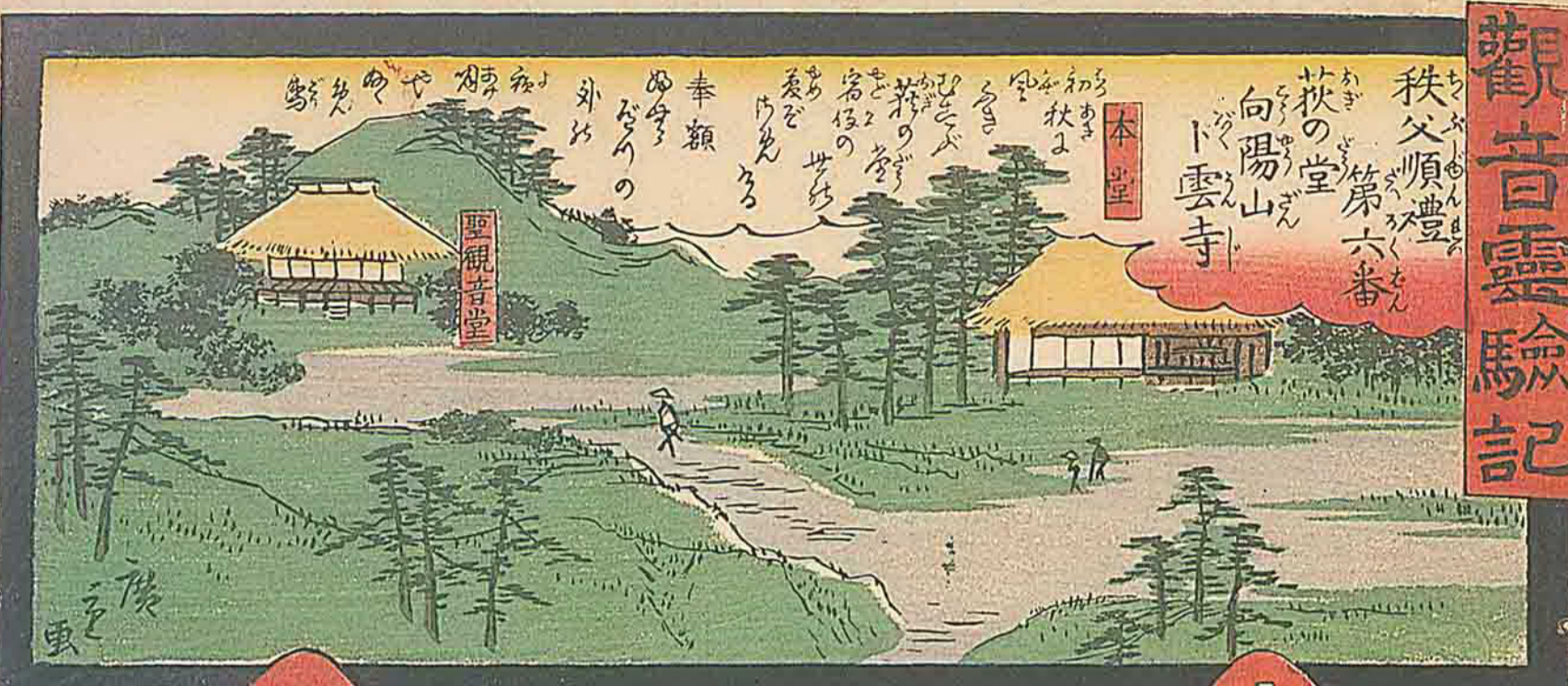
本問孫八

當寺の天檀那孫八其家富貴なれども
かゝる邊鄙小生しんがら神教の道を知りしんが
あまのついでに悲しき此堂へ通夜を和歌の
道を祈りしんがら僧來りて共
通夜を一夜一夜の興儀を語り又片岡
山の化人の歌を講すかたしを曉ふかた消去
やうに失ひて人孫八旅僧に救世大士乃應化
あまのついでに神教の老女娘を魔鳥ふ捕りて
信濃目の縁の老女娘を魔鳥ふ捕りて
心狂ひるる此本尊を祈りて
二十八部衆の命をとりて
あまのついでに俗より子文の
観音と申す



石亭應賀誌

観音靈驗記



第六番
杖父順禮

向陽山
ト雲寺

禪客

言山の本尊を行基の作の往昔草菴小安置
る山簪谷深きが鳥獸の外も春秋の彼岸ふも
来る者もふるしが爰一人の禪客ありて六年の間
草菴に禪定し有無の工夫をいへる処り日
誰ぞ七知の一首和歌を詠む其の歌ふ
もの秋年風吹むを杖父堂
宿仮住むるを覺るる
禪客は法一音を因りて忽ち多年
上ませし無常迅速の理をいへる
を妙声の処を尋ね見ま
一株の萩の下にその詠哥の
短冊のふりかへ
不意に誠観音の
冥感あらんとする
小堂を営むかや
杖父堂とて後人種々の
冥験を蒙りたるがや
今此堂舎を建立し
繁昌の地とあらま

曲豆成虫

彫竹

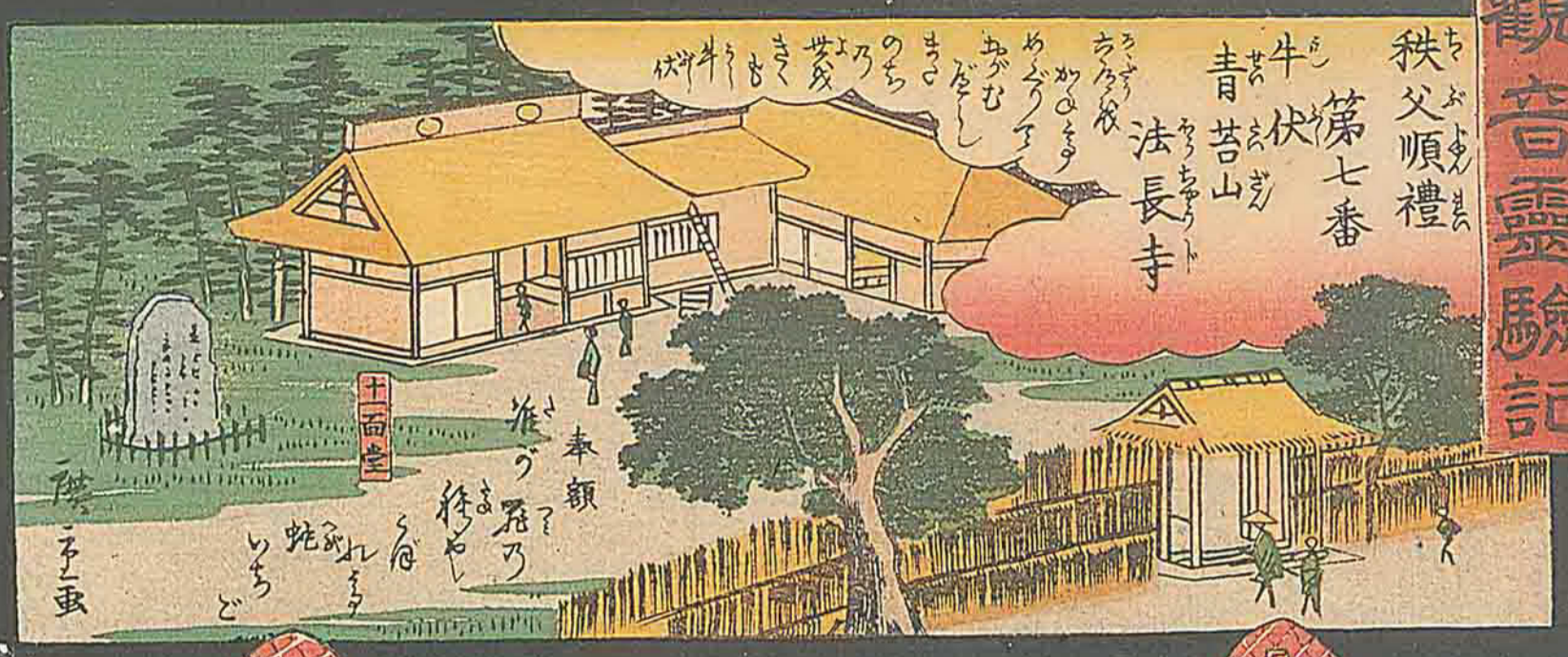


萬亭

應賀誌

繁昌の地とあらま

観音靈驗記



花菫左衛門督長臣某
 永平の頃當郡未野の郷花菫の城主某
 在衛門督の長臣某ハ放逸邪惡の者
 ありシク相馬將門の謀逆ハ子と
 天慶三年官軍攻めらるる山林
 中の一ヶ所終小死を爰一僧
 當寺の観音を携へて其辺に
 兵乱を避て居るがや長臣の
 體を埋む其後平穩ふるりて逃
 去し土民等多く住家不飯多文
 かの長臣の妻子も縁家不飯りて
 夫の行衛を捜せしふかの僧死
 するに候 語は六つあやのそ
 塚み時々詣りて縁家の牛
 糞を産ぬら積此妻子を
 墓ふたや一日かの
 塚へ牽連し
 塚の前み膝
 流し人語を
 りりて我の
 汝ケ夫あり悪心の報みよるる
 牛とある何卒妻子との出家とありて
 る観音を供養せしむを得脱せん
 りよう直み死せり是みよるるかの妻子
 即座の髪をあらて尼とあり夫の悪報を
 観音み祈りて終ふ事



万亭應賀誌

横川彫竹

観音靈驗記



順禮第八番
 三善山 西善寺
 佛閣も廢衰せしとき
 人旅僧來りて
 里人むつひ
 當寺乃詠哥ハ何と
 りと聞かれバ取り入を
 大音ノ節を多々を唄ひめりて
 如く面白くわのしはらめひて
 順禮せしとあり旅僧悦びくちら
 けしとあり其の順礼哥ハ他は勝れ
 れハ忘るることあり最早
 五劫もあづかりて太平
 復し永く佛乘
 應化ニ在る

唄念佛



万亭應賀誌

南傳武山庄板

観音靈驗記



観音靈驗記



横瀬の兵衛



大正の頃横瀬の里に兵衛といふ稚者あり
家貧き多し此寺の林に末て葉を拾ひて
糧とせし一日兵衛が葉を拾ひ居る
僧へ老僧きりや女の病の愈さんと
思ふ此妙文を唱へば則ち無垢
清浄光恵日破諸闇の二句を授け
たれば兵衛ありて思ひここの文を母に
教へてこの日ちの観音堂に通夜をなす
曉みのり内陣より明々星がび出て
母の頂を照らすや眼をさすはあけき
母子とも驚き喜びて本尊を拜

萬亭應賀誌

挿州の儒士



當所は擧功あり未し儒者の
住りて因果應報をまじま
る佛道を習り僧を
賊のてくみ厚し
老僧とある彼が
家ありて談
話及び儒士
大に悦んで佛法をさん
湖一普門品の偈は羅刹鬼國の
文あるが何はあはれ是皆偶言
更み益ありと諷し僧笑ひて曰吾佛教の
原理汝等がた腐儒の考をさるふあはれと
答へ居る丈高は多し満面朱のてくみ
錫元をのりろけ汝無法の入道サラせ
さくハ何はあはれや疾見せよ見せよハ
虚言ありと既ふうちかかんときると手先を
如意をとさきひきき汝が向らせりさくハ
別汝がその忿怒のまををりありと
笑ひて失ぬ儒士たちまち此一言を
さる僧を拜せんとされども見へ
あはれこの此堂の傍の家を轉して
佛道を信しるはその後
天験を蒙りしあり

萬亭應賀誌

萬亭

萬亭

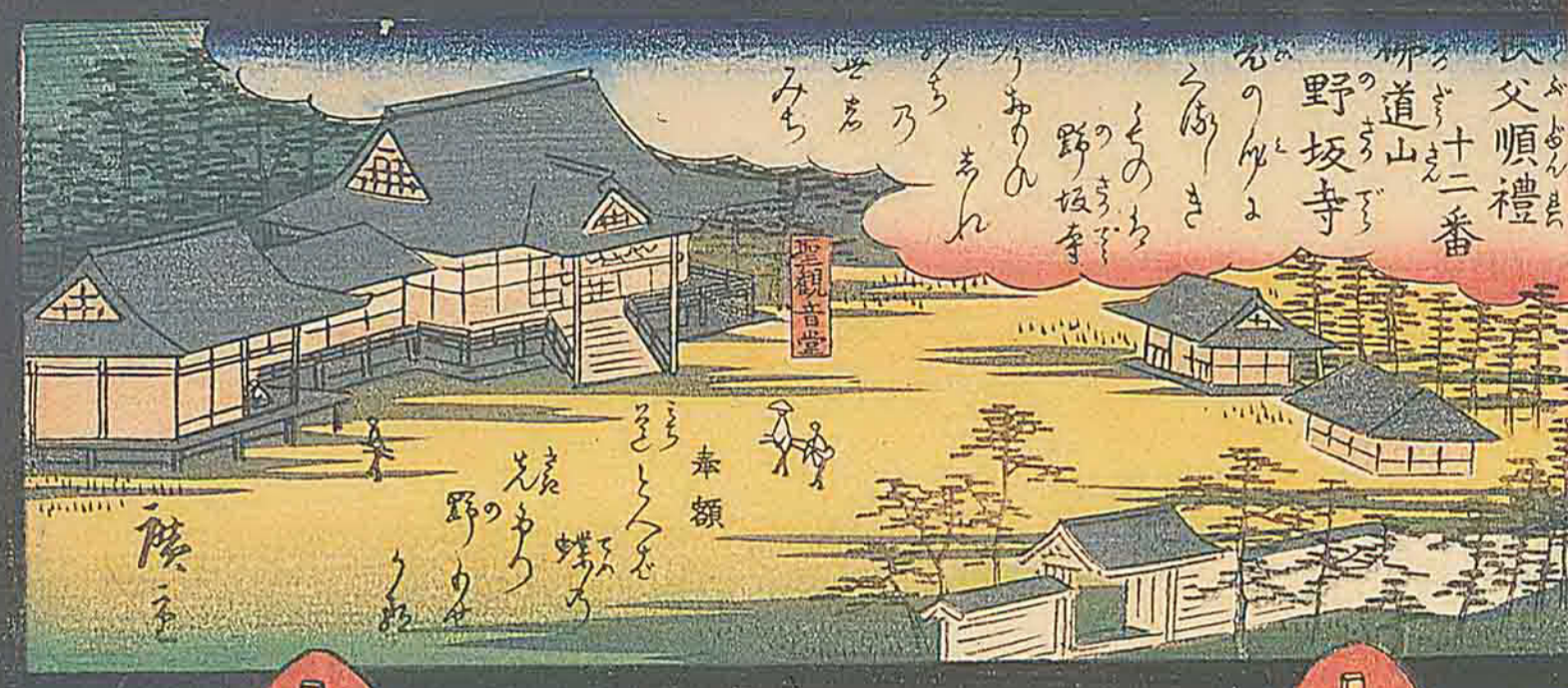
観音靈驗記



扶父 十一番 順禮

坂水 南石山 常樂寺

観音靈驗記



父順禮 十二番 野坂寺

奉額 野坂寺

住持門海

門海も智徳勝なる聖山當山よ
 二王門を建立せしむるの普請なりをふ
 邪氣も犯れしを多し薬服も
 祈念し多し夜夢中も
 快気を祈念し多し夜夢中も
 貴僧来りて吾より汝が邪氣を
 治りせんと言ふ



万亭應賀誌

忽ち平愈し本尊を
 いよく信心し多し猶數多の灵驗を蒙り
 長寿を得たるに偏し當寺の利益を

甲斐の商人



萬應

甲斐の商人古解より
 聖徳太子の作りぬ
 観音の像を持
 来はば
 共ふ力を
 合せし當
 所は堂を建り
 今の本尊
 則ちあり

万亭應賀誌

南傳貳山在板

観音靈驗記



秩父 下山 慈眼寺 十三番
 観音堂 切經堂
 下山の谷と 観音堂の 慈眼寺の 十三番

火災の利益

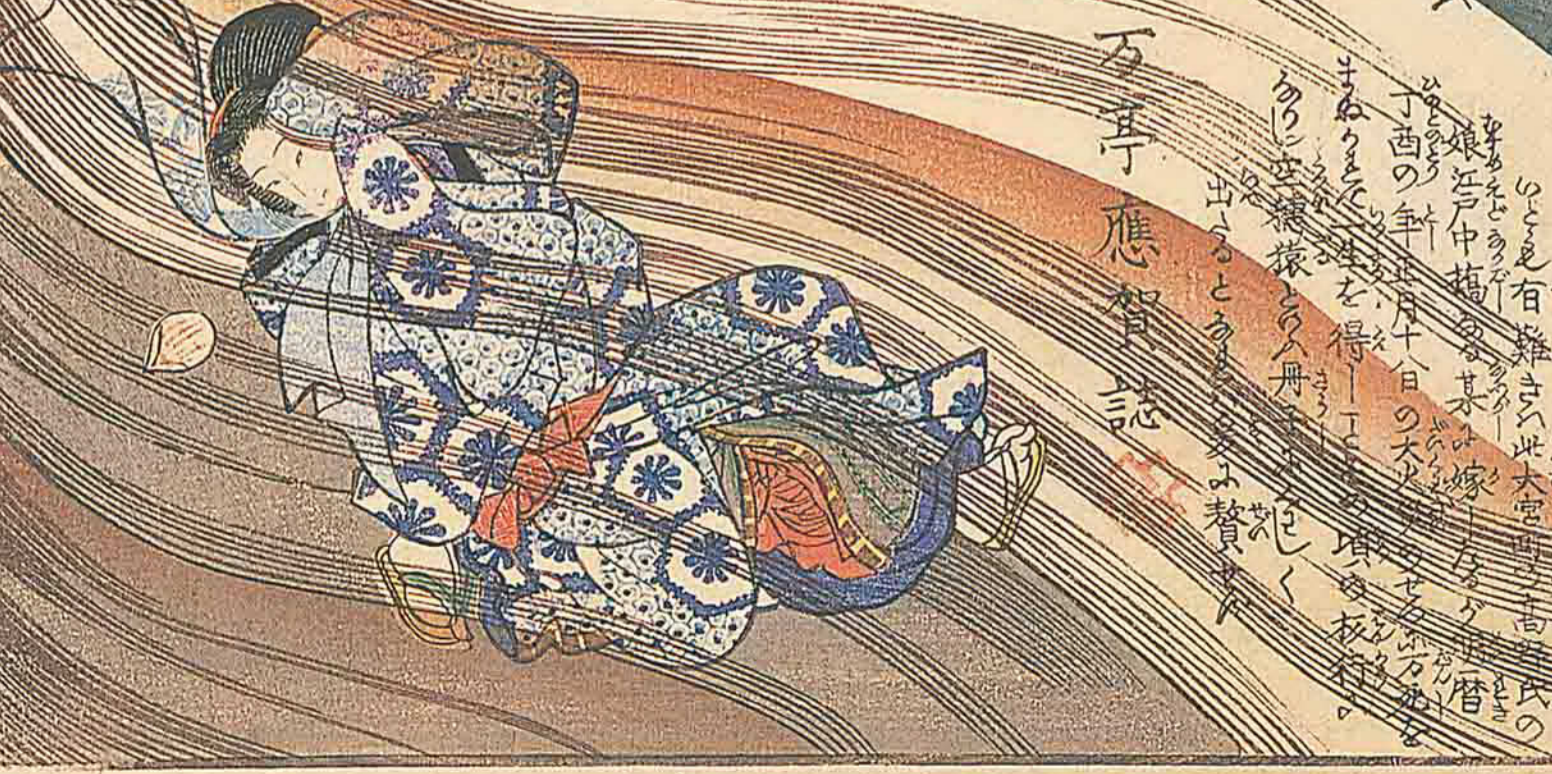


常山 霊験
 常山 霊験
 常山 霊験
 常山 霊験

當所日本武尊東國を征し
 時御旗を建ち入所を
 旗の下とのりてを命に
 命に下りてを命に

常山 霊験
 常山 霊験
 常山 霊験

万亭應賀誌



常山 霊験
 常山 霊験
 常山 霊験

観音靈驗記



秩父 下山 慈眼寺 十三番
 観音堂 切經堂
 下山の谷と 観音堂の 慈眼寺の 十三番

石原宮内



常山 霊験
 常山 霊験
 常山 霊験
 常山 霊験

万亭應賀誌

萬應



常山 霊験
 常山 霊験
 常山 霊験

観音霊験記



秩父順禮
第十五番
藏福寺

奉願
観音
蔵福寺
秩父順禮
第十五番
藏福寺

易尾



易尾の奇談
此の國堅田の
高へ成前國
行て湯尾時
通るに怪物
十人余の公物語り
よしを用い今年に初
人種を悉くと思ひ
小室朝が一面の像
作りて防ぎしと云ふこと
あるは是なり
東國ありて
かんとの二人
ガ言わう者
又の觀音
を東國に
移さるゝも
在りてその時
吾輩日本あり任はる
つゝくは史朝の多と私語をぬの兩人
綱をさるは後神ありんと大山恐
國へ取もたは朝ふかると告るは坂本の地あり
尊像を商人に授けて是を東國に持行て諸人の

万亭
應賀誌

おと疲難
尊き霊場
佛意
安置
主よ
あはれ
尊き

観音霊験記



秩父順禮
第十六番
蔵福寺

奉願
観音
蔵福寺
秩父順禮
第十六番
蔵福寺

圓比丘



圓比丘の住僧
當寺の住僧圓比丘一夜月を感
ふにふる物あり草むらあり幽然と老婆の
姿ありて出て我に古優婆塞ありしが貪欲甚重の
教小の阿鼻獄に墜しをよりさるゝ生う
死のいとも其の業のまに吾子孫あり
の者よまに成彼等告く吾菩提を
吊る人又當寺へ中央の天願の
觀音の像をみちひけ何卒
像ありて吾冥福をいの
趣を轉下樂國ありむし
圓比丘名念佛に孫の者へもつげ
て吊ひて果して遠くは他方より
觀音の像來りたるかの幽霊の
みちひけ者あるん今の本尊則是なり

万亭
應賀誌

圓百之

彫行

圓百之

觀音靈驗記



秩父順禮
十七番
定林寺
持丹生氏

徳重

主生良門 林太郎定元
東國無双の勇士主生良門の忠臣
元主の剛悪を諫めて
家財を没収せらるる當所
知音のまじりて
愛ふ来りしや
其者いさめ失ぬと
同く當惑あつて
かく余義あつて
遠く旅立ちしを
長途の勞まよ身の行まを
のりて身ゆり
安んずるふたふた
あつて三日なると
共々草葉の
露と消え
跡は三歳の
子と遺り
多分空照と
の沙門を
深くうらみ
養ひ育つる
武士は仕へをん
觀音は祈りなれ
良門は持り出たる小出合あつて



△志のぐる者
子と良門
歎息して吾忠臣の定元を
失ふて後後悔あつて
彼を林源太
提の為の
塚の傍に二年と連て
定元の性を
より具定林寺
其後觀音を
安置し
順禮の
天地
万亭應賀誌

觀音靈驗記



順禮
八番
神門
院

巫女の神託
當寺は往昔社ありて大なる榊左右より空小枝を
依りて榊を拾も榊門のどくありて
神門のひびき其社退轉
跡ありて榊の長里人
を集めて再建を誇りたる
まの神樂を奏し
巫女も移りて神託
ありたる此地
必神社を建
てて利益を
立ると
よの観音の霊場とありて告の
合ふの利益ありと神と佛の水波の
西部内證一致して慈悲深重の誓ひ何
るの神を敬ふの必佛を信じて利益を蒙るべき



万亭應賀誌
南傳茨山庄板